

ぼくとちよび

三年 池内悠真

犬のちよびは、ばあちゃんとじいちゃんの家にあります。

ぼくは、ちよびのことを大切にしていました。ちよびにあつた時は、ちよびがひざにのつてきたり、なでたりすると手などをなめてきます。

ぼくがばあちゃんじいちゃんの家でごはんを食べる時は、ちよびがすごい見てきたりほえたりしています。

ちよびをなでているとすわってまったりしています。

ぼくはちよびのことが大すきではあちゃんじいちゃんの家に行ったらはじめあいさつをします。あいさつをする時、ちよびがジャンプしてつっこんできました。

ぼくが歩いていると、たまにちよびがついてきます。その時はなでてあげます。

ちよびはビーグル犬で家の中を走ったりしてすごく元気でした。さんぽの時はぼくよりも速く走っています。色はちゃ色と黒です。

ちよびはふわふわしていてすごく気持ちいいです。ちよびがダンボールをかじっている時ぼくも

まねしてダンボールをかじったらつめがわれました。ぼくたちはなかよしです。

ちよびはごはんを食べる時に、しょつきをどんどんおして動かしてしまっうほどがつがつとすごいきおいで食べています。

でもちよびのことでかなしいことがあります。それはちよびがしんでしまったことです。

まだ生きている時は、いっぱいごはんを食べていたけど、しんでしまっう2か月前はごはんをすこしかたべなくて、すごくしんぱいしました。ちよつとたつたら何もたべなくなって何もたべないで1か月も生きてくれたからぼくはがんばってくれたんだなーと思いました。ぼくは、おみまいにたくさん行きました。ちよびのほねの前におりがみで作ったサイコロなどちよびのにおえをかいてあげたりありがたいのきもちがすごくつまつた手紙をあげました。

15年も生きてくれてすごくい思い出がたくさんあります。

みんなもちよびがしんでしまつてすこいなきました。いつでも頭にちよびのことがのこつていてぜつたいわすれないとちよびとやくそくしました。

いつでもなけるほどかなしいです。ちよびがしんでしまったことはいままでのどんな事より何百ばいもかなしいです。もう、ちよびをなでたりできなくて、手をなめてもらつたりひざにのつてきてくれないと思うと、とてもかなしいけど、今でもぼくはちよびの事が大すきです。

しんでしまつても、あきるまで天国に行かないですつと家で家ぞくの様子を見ていると絵本に書いてありました。きつとちよびはまだ、ぼくたちの近くにいます。